



あ べ や す お  
安 部 辨 雄 氏

生年月日 明治 39 年 8 月 23 日生

住 所 田辺市湊

明治 39 年 (1906 年) 8 月 23 日、西牟婁郡湊村 (現田辺市湊) に生まれる。

戦争により日本の貴重な文化財は多く散逸した。文化国家として、今後の方向を目指す我が国にとって重要なことは古来より伝わる文化財を保存し、その活用を図り、国民の文化的向上に資するとする文化財保護法の目的を体し、田辺市の歴史の解明を自分に与えられた職務として、文化財を顕彰し、文化財を啓蒙し、失われる文化を次代の人たちのために保存したいという信念によって豊富な田辺の文化財保護に取り組み、多大な成果をあげられている。

特に、文明 3 年 (1471 年) から天保 10 年 (1839 年) までの田辺における一切の出来事を記載した「万代記」105 巻、天正 10 年 (1582 年) から慶応 2 年 (1866 年) までの田辺町会所の記録「田辺町大帳」130 巻、天保 11 年 (1840 年) から明治 2 年 (1869 年) までの役所からの達しなどの記録「御用留」43 巻は、いずれも田辺に関係する諸般のことがらを知り、その時代の庶民生活の実情がうかがわれ、社会事情の変遷を知ることのできる貴重な文献で、これらの解読は他の文化財関係者との合同作業とはいえ、氏の力に負うところが大きく、解読参加による功績は多大である。

また、「田辺文化財」「田辺市の文化財」の編集と「田辺文化財」「くちくまの」「上富田文化」その他多数の文化財関係誌への投稿や、地方史研究誌「紀州田辺藩における宗門改」、文化庁編文化財愛護地域活動事例集「文化財愛護都市宣言への歩みー田辺市」などの寄稿等も多く、文化財保護という地味で息の長い仕事を自分の生きがいとして地道に励んでいる当地方の文化財関係の重鎮の一人である。

なお、昭和 47 年 (1972 年) に文化庁から当市が文化財モデル地区に指定されたことを契機として市の社会教育指導員 (後に文化財指導員となる。) の職に就き、昭和 55 年 (1980 年) 現在も活躍中である。

南部高校在勤当時は、野球部長を約 20 年間務め、スポーツに対する情熱もある一面を見せている。

(略 歴)

昭和 7 年 (1932 年) 3 月 国学院大学国史学科卒業

昭和 8 年 (1933 年) 6 月 大阪市第四西野田尋常小学校教諭

## 第11回 (昭和55年)

昭和10年(1935年)10月	大阪市立第四西野田青年学校教諭
昭和21年(1946年)1月	大阪市立海老江東国民学校教諭
昭和21年(1946年)4月	和歌山県立日高高等女学校教諭
昭和23年(1948年)4月	和歌山県立南部高等学校教諭
昭和30年(1955年)8月	田辺市文化財調査会委員
昭和37年(1962年)4月	田辺市文化財審議会委員
昭和38年(1963年)12月	紀南文化財研究会員(発会)
昭和43年(1968年)3月	紀南文化財研究会理事長
昭和43年(1968年)4月	和歌山県立南部高等学校講師 和歌山県立田辺高等学校講師
昭和45年(1970年)5月	和歌山県文化財保護指導員
昭和47年(1972年)5月	田辺市社会教育指導員
昭和49年(1974年)4月	田辺市文化財指導員
昭和50年(1975年)3月	紀南文化財研究会副会長

その他 和歌山県文化財研究会員、地方史研究協議会員(東京)、和歌山県誌編さん協力委員、熊野路編さん企画編集委員、紀南文化財研究会機関紙くちくまの編集員

昭和35年(1960年)度	和歌山県遺跡調査員
昭和36年(1961年)度	同上
昭和47年(1972年)度	和歌山県文書調査員(有田川流域文書)
昭和52年(1977年)度	和歌山県文書調査員(富田川流域、田辺市文書)
昭和38年(1963年)刊	上南部誌(南部川村誌)編集顧問
昭和46年(1971年)刊	田辺市誌(2)監修委員

昭和33年(1958年)10月	万代記解読参加
昭和35年(1960年)3月	万代記第1巻刊行担当
昭和46年(1971年)	御用留解読参加
昭和48年(1973年)	田辺町大帳解読参加
昭和53年(1978年)	御用留目次作成参加
昭和54年(1979年)	田辺町大帳目次印刷参加
昭和55年(1980年)	同上

(受賞歴)

昭和53年(1978年)6月	文化庁長官表彰
----------------	---------